「油を注がれ、真理を知っている」　　2025 年 11 月 28 日

子どもたちよ、今は終わりの時です。反キリストが来ると、あなたがたがかねて聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。 このことから、今が終わりの時であることが分かります。彼らは私たちから出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。仲間なら、私たちのもとにとどまっていたことでしょう。しかし出て行き、彼らが皆、私たちの仲間ではないことが明らかになりました。あなたがたは聖なる方から油を注がれているので、皆、真理を知っています。私は、あなたがたが真理を知らないのではなく、真理を知っており、すべて偽りは真理から出たものではないと書いているのです。(Ⅰヨハネ 2：18～21)

著者は「子どもたちよ」と呼び、親が子を諭すように、「今は終わりの時です」と語りかけている。古代教会においては、主イエスの再臨による終わりの時が来るという緊迫した終末信仰に生きていた。この信仰が、主イエスに信従しようとする篤い思いに高めていた。著者は、「反キリストが来ると、あなたがたがかねて聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。このことから、今が終わりの時であることが分かります」と認識している。反キリストが現れると、世の終わりの時が来ると信じられていた。主イエスは、終末が来る時の徴を、マルコ福音書 13 章 21～22 節で下記のように語っている。「その時、『見よ、ここにメシアがいる』『見よ、あそこだ』と言う者がいても、信じてはならない。偽メシアや偽預言者が現れて、しるしや不思議な業を行い、できれば、選ばれた人たちを惑わそうとするからである。」著者は、偽メシアである反キリストが現れ、選ばれた人々を惑わす、終わりの時が来る、今がその時であると言っている。偽メシアは、自分こそが救いを与えるキリストであると徴や不思議な業で宣伝し、自分に栄誉と利益を集めようとする。彼ら反キリストはもともと仲間ではないので、私たちから出て行った。出て行ったことにより、仲間でないことが明らかになった。教会には人が自由に集まり、主イエスの福音に反する教えが説かれ、教会を惑わす者たちもいた。パウロは、ガラテヤ書 1 章 8～9 節で「しかし、私たちであれ、天使であれ、私たちがあなたがたに告げ知らせた福音に反することを告げ知らせるなら、その者は呪われるべきです。私たちが前に言ったように、今もう一度私は言います。誰であれ、あなたがたが受け取った福音に反することをあなたがたに告げ知らせるなら、その者は呪われるべきです」と、福音に反する教えを語る者を「呪われるべき」と厳しく弾劾している。「ヨハネ教団」においても、反キリストが現れ、福音信仰を乱していたのである。著者はしかし、「あなたがたは聖なる方から油を注がれているので、皆、真理を知っています」と言う。「聖なる方」はもちろん主イエスである。「油を注がれている」とは、サクラメントの一つとして行われた「塗油式」のことで、洗礼式の前か後に行われていた。古代教会において、油注ぎは「聖霊の授与」を意味した。あなたがたは、主イエスから聖霊を受けているので、真理を知っている。「ヨハネ教団」において「真理」は福音信仰のキーワードであった。聖霊は神の真理を悟らせ、キリストと人とを結びつける神ご自身である。永遠の神は実在し、しかも、主イエスの受肉によって歴史の内に顕在している。真理を行うとは、主イエスの愛を受け、救済に与り、主イエスの愛に倣う生き方をすることであった。著者は、あなたがたは聖霊によって偽りを見抜き、真理を知っていると語りかけている。